

〔国際会議開催〕

申請者	IS-GNSS2015 組織委員会 委員長 山川 宏	2155017
国際会議名称	GNSS 国際シンポジウム	
開催期間	2015年11月16日～11月19日	
開催場所	京都市勧業館「みやこめっせ」(京都市左京区)	
申請者の役割	組織委員長	

概要：

GNSS 国際シンポジウムは、アジア・オセアニア地域で各国持ち回りで開催する国際会議で、GNSS 研究の最先端の研究者や専門家が集まり、最新の研究成果を発表し、関連する知識の国際的な交換を意図しています。

オープニングでは京都市長による歓迎挨拶も有り、続いてキーノート・セッション、Civil GPS Service Interface Committee (CGSIC) のアジア・太平洋地域ミーティング、衛星測位分野の国際的な状況・計画をはじめとして、政府機関等各界を代表する方々の講演がプレナリーセッションとして行われました。

2日目からは4会場に分かれて、24カ国からの351名(うち、海外からの参加者137名、学生63名、論文138編)の参加者による口頭発表、ポスター発表、企業ブースにおける情報交換と議論がなされました。

測位衛星による位置情報は安全保障の観点から国家の重要施策で有り、情報化社会における「人間と機械の調和」の促進のために必要不可欠な要素技術でもあります。

アジア・オセアニア地域では、日本と異なり、二期作や三期作を行っている国々も多く、効率的に農作業を進める必要があるため、特に精密農業では圃場における投入資源や収穫量を位置情報と連動させて正確に管理することが求められています。このため、準天頂衛星システムによる高精度な位置情報を利用してデータ収集・管理・分析、農機の自動操縦によるより高度で効率的な精密農業ニーズの高まりがみられました。さらには効率的な物流管理、災害防止のために正確な位置情報の入った地図作成、警報伝達システムの開発など安全で効率的な社会の形成に向けて衛星測位による位置情報活用の多くの課題が検討されました。

貴財団からの助成により、各国の有能な研究者6名を招聘する予算が確保できました。本シンポジウムが、彼らの研究を直接的にサポートし、アジア・オセアニア地域における測位衛星技術の活用が促進され、大きな社会貢献の一助となることを確信しています。